

緑のふるさと協力隊員・千葉遥加の奮闘記

風ノハルカ

Chiba Haruka volume8

接岨の梅津神楽に参加しました

なんやかんやと忙しくしているうちに、1月が過ぎ去ってしまいました。

風ノハルカも残りあと1回。そろそろ「立つ鳥跡を濁さず」の準備をしなければなりません。

新年になってから、ありがたいことに夜に一人でぼーっとしていることが、ほとんどないです。

1月6日には、接岨の梅津神楽に参加させてもらうことが決まり、練習のため、ほぼ毎日接岨峡まで通っていました。

トンネルの多い真っ暗な道路を一人で運転するのは怖かったです。対向車がほとんどないことで逆に自由な運転ができて、慣れると楽しかったです。

タイヤもスタッドレスに替えたので、大寒波に見舞われて凍った道でもゆっくり行けば大丈夫でした。練習にいくと温泉に入れるという特典があったので、片道が長くてもやる気になりました。最初は「一つくらい舞ってみるか？」なんて言っていたのですが、練習が本番までに間に合いそうになかったため、途中で取り止めになって笛のみになりました。

一生懸命教えてくださったのに申し訳ないです。思っていたよりも舞は難しかったです。

笛は徳山での伝統芸能に鍛えられていたせいか、比較的楽に吹くことができました。

16日の本番は、開始が7時で終了は午前2時ごろになりました。

終わるころには眠くて疲れてへろへろでした。奥さんたちのバザーの料理や差し入れのおにぎりが美味しく、笛で使った体力を補給するのにすごく効きました。見学のお客さんもたくさん集まり、休憩時には機会がなくてなかなかお会いできなかった人と話すこともできて楽しかったです。

慰労会まで終わって、外に出たら車の窓ガラスが凍って真っ白でした。さすが本町最北端です。帰るには遅いからと泊めてもらったのに、翌日の片付けと神社への奉納には用事があって参加できずに残念でした。

温かく迎えてくださった梅地の皆さん、ありがとうございました。

千葉遥加（ちばはるか）

千葉県柏市出身 緑のふるさと協力隊員第16期生

緑のふるさと協力隊とは

特定非営利活動法人地球緑化センターが実施する、農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に一年間派遣する事業。協力隊員たちは、農林畜産業など担い手が不足する第1次産業や、新しい刺激を求めている観光施設などで、隊員活動に励み、地域の活性化に貢献する。遥加さんは第16期生、川根本町3代目の隊員。

